

基本理念	一人ひとりを大切に、心豊かに、たくましく生きる子どもを育成する	
めざす子ども像	あいさつをする子	・コミュニケーションのきっかけとなるよう気持ちの良いあいさつを行う。 ・あいさつを通じて仲間と親しみをもちながら、遊びの中で協同性や道徳心を養う。
	話を聞く子	・経験したことや考えたことを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりして、言葉による伝え合いができるようになる。
	じっくり遊ぶ子	・身近な事象に積極的に関わりながら、物の性質や仕組み等を感じたり気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりする等多様な関わり方をする。 ・自然に触れる体験を通じて自然の変化等を感じ取り、好奇心や探求心をもって考え、言葉で表現しながら身近な事象への関心が高められるようになる。
教育・保育方針	①一人ひとりの居場所作りをし、個に寄り添った教育・保育を行いながら、子どもとの信頼関係を築く。 ②情報公開をしたり説明責任を果たしたりする等、きめ細かく丁寧に保護者に伝える。 ③保育の専門性や技能を高め、保育教諭としての資質向上を図る。 ④園小合同研修を行い、子どもの学びについてお互いの理解を深める。 ⑤送迎時や活動時の安全管理の徹底等、個々の危機管理意識を高める。	

自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取り組み(達成)の状況	達成状況	改善の方策(今後について)
園運営	○職員の資質向上 ・計画性のある研修の実施  ○組織体制の充実	・人権擁護のためのセルフチェックリストを活用し人権に対する意識を高める研修を数回行い、振り返りをしたり改善の手立てについて話し合ったりした。 ・職員会議や園内研修の持ち方を工夫し、時間短縮や対話重視の研修に重点を置いて行なったので、同僚性が構築されてきた。 ・時間内に勤務が終わるように働き方を意識する声掛けを行った。 ・研修報告を見える化し、掲示することで全職員が周知できるようにした。 ・資質向上や研修の評価が上がった(96%)ことから、専門知識や技能習得に意欲的になったことが伺える。 ・オンライン研修を用いて全職員が講演を聞けるようにした。	B	・セルフチェックリストを行うことにより、自らの保育に起こった変化について客観的に振り返ることができ、自身の保育向上に繋がっていることがわかった。又良くないと考える対応を減らしていくにはどうするかを討議し、他者の意見を聞いたことにより保育の見直しや幅が広がったので、今後も振り返りを継続する。 ・職員会議で園の事例からミニトークを行った。年齢差を問わず和やかに対話が弾むようになり、よい傾向が見られた。又意見をまとめたり発表したりするプレゼン力も身に付いてきたので、今後も継続する。 ・職種や勤務体制に関わらず受講できる体制作りをする。 ・水曜は超過勤務をせずに帰宅する習慣がついてきたので、今後も声掛けを行う。
教育課程	○教育・保育課程の作成 ○指導計画の作成・反省 ○発達過程に応じた教育・保育 ○環境を通して行う教育・保育	・目指す子ども像にじっくり遊ぶ子を取り入れた。過程を重視し個の成長を見取るようにした。ほぼ100%の保護者がじっくり物や人と関わって遊ぶと回答があった。 ・子の発想から遊びに繋がりが広がるように、必要な材料や道具、場所を準備するようにした。 ・一人ひとりの特性や発達の課題を把握したり、言動や仕草からの読み取りを行ったりする等幼児理解に努めた。(100%) ・意図と行為を明確化するよう援助の書き方を実行した。 ・異年齢で触れ合う時間や活動を意識的に持つようにした。 ・暑さ対策の為、運動会の競技を検討し、時間短縮や園児主体に努めた。	B	・じっくり遊ぶ子を意識し、主体性を重視した遊びが展開するよう環境整備を行った。園庭にテーブルが不足したり、子どもの遊び場に応じて日陰を設置したりする等引き続き整備を行う。しかし連続して遊びが持続するまでにはいかず、遊ぶ姿を観察しながら検討が必要である。 ・指導計画の意図と行為を明確にし、何をねらいとしてこの活動をするのか意識する為、今後も継続して立案する。 ・運動会行事を見直すきっかけとなった。園児が主体となり楽しく取り組めるような内容や種目を取り入れる。又暑さ対策の為、開催を10月にする。
子育て支援	○親子の育ち合いの場としての役割や機能の充実 ・すくすくひろば開設、子育て相談、講座等の開設	・よい子ネットを活用し、おすすめレシピやおやつ、親子遊び等を発信した。 ・保護者の送迎の際に、積極的に声かけをして、子育ての悩みや困り事の相談を受けた。 ・地域の在宅児に声を掛け、すくすくひろばへの参加を誘った。 ・不参加が続いた家庭には電話をし、近況を尋ねた。 ・すくすくひろばより児童館、民生委員、自治会に配付し、掲示してもらった。 ・地域行事に参加した際に、出会った未就児に声をかけ利用を誘った。 ・利用者の100%の方に概ね満足していただいた。	B	・地域に未就児が少なく、利用者がいない日もあり悩んでいたが、地域行事で見かけた時に声かけをしたおかげで、少しづつ利用者が増えた。今後も保護者や地域に働きかける。 ・未就児がいる保護者にはこちらから意識して声掛けをする等、話しやすく相談しやすい雰囲気作りを心がける。 ・今後も地域にすくすくひろばを配付し掲示してもらうよう協力を依頼する。 ・他園との交流や園行事の参加、又希望を尋ねたりして内容を充実させる。
安全管理	○園舎の安全、安心確保 ・園舎や遊具の安全点検及び管理 ○職員の危機管理能力の向上 ・防災訓練の実施 ○交通安全指導の推進 ○健康観察、健康診断、歯科検診の実施	・10月に業者による建物点検・遊具点検(8カ所)を行った。 ・毎月避難訓練と一緒に安全点検を行った。11月に通報・消火訓練を行い消防署員から指導を受けた。3月には職員のみで通報・消火訓練を行った。(年2回) ・ヒヤリハットは全職員が確認し、事例から園内研修を行った。又園内外の危険箇所を掲示し、改善点と共に全職員が周知できるようにした。 ・12月に防犯訓練を行い、警察から指導を受けた。 ・年1回警察や指導員から交通安全指導を受けた。 ・毎朝検温を実施。感染症公開や保健指導を適宜行った。 ・嘱託医による年2回園児健康診断及び年1回歯科検診を行った。 ・AED研修を行い、乳児・幼児の心肺蘇生法を学んだ。 ・玄関横にフェンスと電子錠門扉を設置した。 ・100%の保護者に園は安心できる環境を作っていると評価された。	B	・園舎内外の地図を作成し、全職員が危険箇所を周知できるように掲示し、ヒヤリハットがあった箇所は黄色、対策はピンク色で記載した。今後も継続して行い、全職員が意識できるようにする。 ・今後も定期的に実地訓練や講習を受ける等防犯訓練やAED研修を行う。 ・園内の具体的な例を上げ、どんな危険があるかを予知したり、その為にどう行動すればよいかを考えたりするKYTを定期的に行い、危機管理意識を高める。又確実な点呼を意識する。 ・毎月の避難訓練では、咄嗟の行動がとれるよう、様々な場面や時間を想定して立案する。又二次避難の際、実際に建物の中へ避難誘導も行う。
教育・保育	○一人ひとりの特性や発達課題に応じた支援計画の作成と実施 ○専門機関、教育機関との連携 ○途切れない支援の推進 ・家庭との連携 ・小学校との連携	・年3回巡回相談で心理士から援助方法について指導を受けた。又相談員訪問を受け、要配慮の園児について相談した。定期的に家児相へ要支援家庭園児の様子を伝えた。 ・学期ごとに個別指導計画を立案し、保護者に同意を求めた。サポートファイルを作成し小学校へも丁寧に引継いだ。 ・療育に通う園児や医療的ケア児は、支援会議を設け他機関と連携を図った。 ・市主催の特別支援教育研修や市保協の特別支援教育部会に出席した。又全職員が特支講演の動画を視聴した。 ・特別支援教育に対して100%の職員が個々のニーズに寄り添った支援をしていると回答した。	B	・個々に合った支援を行っていき上で、支援方法や支援内容を検討したり相談したりできるよう、特別支援委員会を充実させる。 ・今後も送迎の際や連絡ノート等で園の様子や支援内容、又その後の行動の変化等をきめ細やかに保護者に伝えて信頼関係を築く。又必要に応じて懇談を行う。 ・他機関との支援会議では保護者同席の元、現在の様子を伝え合い、双方が共通理解して支援を行えるよう、今後も継続する。医療的ケア児については、市を超えた連携が必要になってきたので、市や県に相談している。今後就学に向けて、保護者の意向を尋ねる。
家庭・地域 他校種との連携	○信頼される園作り ・情報の発信・受信 ・園行事への積極的な参加の推進  ○小学校との連携 ・互いの学びの場となる計画的な交流  ○地域とのつながり	・毎日よい子ネットで園児の活動内容を伝え、意図、感染状況、啓発等情報発信に努めた結果、100%の保護者に満足していただいた。 ・行事後、相互で園児の成長を喜び合えるように保護者からの感想を返信した。 ・登降園の際には、気持ちの良い挨拶を心がけ他愛のない会話から話しやすい雰囲気作りを心がけ、相談しやすい園を目指した。100%の評価を得た。 ・ケガ、トラブル時は、直接保護者に経過を説明して謝罪した。又日々の生活の中で気づきや成長等を連絡帳を通じて保護者に伝えた。(96%) ・必要に応じて個別懇談を行った。 ・園小職員で合同研修会を開き、子どもの実態から一緒に手立ての方法を考え、又こども園の生活について小学校側からの質問に応じた。 ・5歳児は年5回計画的に交流を行い、そこでの経験を遊びに繋げた。又マラソン記録会に初参加した。登校練習は3回行った。(感染症や警報発令の為2回中止) ・5歳児保護者に向けて南小学校長による講話を行った。小学校との連携については100%の保護者の方に取り組みの様子を周知理解していただいた。 ・地域事業及び学校運営協議会に参加した。(南小マルシェ、秋の文化作品展・子ども食堂等) ・さつまいもの苗植えや収穫等を地域住民と一緒にやった。又焼き芋大会では地域住民を招待し交流した。 ・高齢者施設とはどんな方が入所しているのかを知り、年1回訪問した。感染予防の為施設内には入らず、作品をプレゼントしたり挨拶をしたりした。 ・積雪の際には、園と地域とが一緒に園周辺や駐車場の雪かきを行った。	A	・よい子ネットは毎日1件以上の発信を行い2月末で333件の発信となり、保護者に喜んでいただいた。園を『見える化』することで信頼に繋がり、園の方針や遊びの意図を伝えることで幼児教育を理解する糸口になるのでは考える。今後もバランスの良い発信を継続する。又クラスだよりも限定公開での発信を考えている。 ・『相談しやすい園づくり』を目指し、積極的な挨拶や会話を心がけていくようにする。早期発見で他機関に連携が必要な場合は、企画委員会で検討する。 ・今後も、先に一報を入れたり丁寧な対応を行ったりして、保護者が安心感をもって預けられるよう信頼関係を築く。年長児は年2回(6・12月)全員懇談を行う。 ・交流活動や合同行事等で小学校に親しみを感じている園児が多い。合同研修会では、幼児教育の無自覚な学びが小学校教育での自覚的な学びへと繋がっていることに共通理解を行った。今後はこども園の生活スタイルを参考に、就学後の時間配分や学習等について共に検討していくことが必要と考える。 ・今後も地域事業や学校運営協議会に参加し、共に地域の子どもについて協議する。 ・今年度、焼き芋大会では、地域住民を招待して園児との交流を喜ばれたので、次年度も継続する。 ・3グループによるおはなし会は園児も楽しみにしているので、継続する。又全園児対象にした人形劇観劇を検討する。 ・今後も地域に根ざした園づくりを進める為、地域住民に積極的に挨拶をしたり会話をしたりする。

こども園関係者評価(こども園関係者評価委員より)

・全体に厳しい意見がないのはいいことである。子どもの目線に立って園内外の危険を察知し、防止策を講じるようにして欲しい。しかし禁止するのではなく年齢に応じて方法を教えることが大切である。園の様子が見えることで保護者は安心するので、続けて欲しい。子どもに接する時は人権に配慮した言葉を使うようにすることが大切である。すくすくひろばが周知されるよう、交流館にも掲示すればどうか。身障者・妊婦専用駐車場には、駐車しないよう呼びかけて欲しい。以前の生活に戻りつつある中、仕事も増えるので健康やメンタルに気を付けていただきたい。園外の危険箇所があれば、一緒に対処していきたい。今後も食の安全について気を付けていただきたい。

こども園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

- ・『つながる』を信条に、園、子ども、保護者、地域、学校が丸くつながり、『こどもまんなか社会』の実現に向けて、関係性を構築していく。
- ・対話を重視して『相談しやすい園づくり』『同僚性の向上』に日々努める。
- ・一層、園の『見える化』を図って情報発信に努め、保護者の安心感を得ながら、信頼関係を築いていく。
- ・子どもの人権を尊重し最善の利益を考えると共に、0~5歳までの学びの連続性を見据えた教育・保育の充実を図っていく。

令和6年3月31日

園名 認定こども園ぬぬぎ  
園長名 芦田 公世

